

R2 【点検と評価】

目標設定 Plan	所管課 School Education Department	年度評価 Yearly Evaluation	2016(H28)			2017(H29)			2018(H30)			2019(R1)			2020(R2)			
			年	月	単位	年	月	単位	年	月	単位	年	月	単位	年	月	単位	
基本方針3 基本的方向(1)	子どもの学びや育ちを支える仕組みの確立 School's organizational capacity and ability to support children's learning and development	学校の組織力及び教職員の資質能力の向上 Improvement of school organization and teachers' professional qualities	成績指標 Performance indicators	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合 Percentage of teachers who can use ICT to guide during lessons	目標値 Target value	78	実績値 Actual value	96%	2016(H28)	81	85	2017(H29)	80.1	85.3	2018(H30)	81.8	89	90
授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合95%以上:評価「A」、80%以上:評価「B」、70%以上:評価「C」、70%未満:評価「D」																	63.9	
取組内容 Implementation measures	①計画的・継続的な教職員研修の実施 Implementation of planned and continuous staff training	1 ②保護者や地域住民に開かれた学校づくり ③教職員の円滑な職務遂行のための職場環境の整備 ④メンタルヘルスの保持増進とワーク・ライフ・バランス等のない、一人一人が意欲を持つて教育活動にあたることができる教職員相互の協力・協働の職場づくりを推進した。	1 ①今日的な教育課題に対応した実践的な指導力の向上を図るため、教職員の職務内容に応じた各種研修を実施した。 7 1 1 2 1 1 2 1 1 2 3 1 1 2 5	1 ②学校の特色や地域を踏まえた学校づくりのため、学校評議員制度の公表や、学校評議員制度の活用を通して、保護者や地域住民の意向を学校運営に反映するよう努めた。 2 ③教職員の円滑な職務遂行のための職場環境の整備 1 セクシャル・ハラスメントやパワーハラスメント等のない、一人一人が意欲を持つて教育活動にあたることができる教職員相互の協力・協働の職場づくりを推進した。 2 3 1 セクシャル・ハラスメントのない学校環境づくりのため、勤務時間の適正化を推進した。 5	1 ①児童生徒の考える力を高める授業実践研修 ②学校評議員制度の活用 ③『セクシャル・ハラスメントのない学校に』(兵庫県教育委員会)等を活用した研修の実施 ③『パワーハラスメントの防止に向けた取扱指針』(兵庫県教育委員会)の徹底 メンタルヘルスの保持増進に配慮した校内体制等の構築 校務支援システムの活用 「教職員定時退勤日」「ノータイムデー」の完全実施	1 ①教職員夏季研修(中止) ②学校評議員制度の活用 ③『セクシャル・ハラスメントのない学校に』(兵庫県教育委員会)等を活用した研修の実施 ③『パワーハラスメントの防止に向けた取扱指針』(兵庫県教育委員会)の徹底 メンタルヘルスの保持増進に配慮した校内体制等の構築 校務支援システムの活用 「教職員定時退勤日」「ノータイムデー」の完全実施	1 ①キャリアステージ研修 ②hyper-QU事例検討会 ③学校経営研究発表会											

成果と評価	取組		成果
	①	②	
Check	▷本市の教育課題や各学校の課題解決のための研修の充実		▶小中一貫教育、GIGAスクール構想の推進に向け、本市の課題に対応した研修を実施した。本市の教育課題に対する教職員の意識を高め、理解を深めることができた。
	▷学校評価結果を踏まえた学校運営の改善		▶学校評議員会や保護者・住民アンケート結果を取り入れた学校評価を実施し、学校運営の改善に活用できた。
	▷教職員定時退勤日・ノーベル活動の実施		▶全ての学校において、定時退勤・ノーベル活動の実施に取り組んだ。
評価	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合が63.9%だったため、評価を「D」とする。		
今後の課題	取組	課題や改善点	
Action	①	△小中一貫教育の推進、英語教育の充実、情報教育の充実等、本市の教育課題や新学習指導要領の実施に対応した研修に引き続き取り組む。特に、GIGAスクール構想の実現に向け、タブレットを活用した授業を推進し、教員のICT活用指導力の向上を目指す。	
	②	△保護者の意見や地域の実態を踏まえ、PDCAサイクルによる組織的・継続的な学校運営改善に努める。	
	③	△定時退勤日やノーベル活動の完全実施に引き続き取り組む。	

R2 【点検と評価】

基本方針3 基本的方向(2) ①②		子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立 安全・安心で信頼される学校づくり		年度評価 2016(H28) B 2017(H29) A 2018(H30) B 2019(R1) B 2020(R2) D	
所管課 目標設定 Plan	学校教育課 成果指標 避難訓練、防災訓練、防犯訓練等の実施回数	年次実績 H27基準値 回 47		年次実績 H28 回 47	
		目標値 回 48	年次実績 H29 回 52	年次実績 H30 回 52	年次実績 R1 回 49
取組内容	避難訓練、防災訓練、防犯訓練等の実施回数 54回以上：評価「A」、46回未満：評価「C」、45回未満：評価「D」 ※平成30年度から評価「A」は、54回以上に変更。				
Do	<p>①保護者や地域住民の参画を得た学校行事の積極的な実施 1.2 学校・家庭・地域の連携をより強化し、信頼される学校づくりを行うため、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、学校オープン等の学校行事を実施</p> <p>②子どもたちが安全な環境の中で、安心して学校生活が送れる環境づくりした。 3 保護者や地域住民が学校行事に参画しやすいよう、学校便りやホームページ等を活用して積極的な情報発信を行った。</p> <p>③子どもたちが安全な環境の中で、安心して学校生活が送れる環境づくりした。 1.2 安全に関する教職員の知識・技能の向上を図るため、各校で安全に配慮して実施した避難訓練等の工夫や留意点を紙面で情報交換して次年度の取組に反映させた。</p> <p>④新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じたうえで、防災訓練を実施した。例年4月に実施していた引き渡し訓練は時期を変更したり、資料配布に代えたりして実施した。学校自主防災組織合同訓練は中止した。</p>				
関連事業	<p>① 運動会、体育祭、音楽会、文化祭等の学校行事 ふるさと学習、体験学習 ホームページ、学校だよりでの情報発信</p> <p>② 避難訓練、防犯訓練、防犯教室 教員研修(不審者対応等) 引き渡し訓練 学校自主防災組織合同訓練</p>				
成果と評価	<p>取組 繼続課題</p> <p>① ▶学校だよりの充実やホームページの定期的な更新</p> <p>② ▶防犯教室や防犯訓練の充実</p>	成果 ▶学校だよりやホームページを通じて、子どもたちや学校の様子、臨時休業中の情報等を保護者、地域に提供することができた。		▶警察や青少年センターと連携して、より実践的な不審者対応訓練を実施し、教職員の防犯意識、判断力、対応力の向上が図れた。また、認定こども園職員向けの防犯教室を実施し、市内施設の防犯意識の向上に努めた。	
Check					
今後の課題	評価 取組 課題や改善点	避難訓練、防災訓練、防犯訓練等の実施回数が、38回だったため、評価「D」とする。			
Action	<p>① ◇保護者や地域住民にタイムリーな情報を提供できるよう、学校だよりの充実やホームページの定期的な更新に引き続き取り組む。</p> <p>② ◇避難訓練実施後に課題を振り返り、防災マニュアルの見直しやより実践的な訓練想定による改善するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じた訓練に取り組む。</p>				

R2 【点検と評価】

所管課 Plan	目標設定 Plan	年度評価	2016(H28)		2017(H29)		2018(H30)		2019(R1)		2020(R2)	
			A	A	A	A	C	C	B	B		
【点検と評価】												
取組内容 Do	③ 安全・安心な教育環境の整備のために、小中学校の体育館の外壁や、普通教室などにオゾン発生装置を整備した。	単年度評価	③ 学校教育施設や教材等などの教育環境や就学支援の充実	① *東条地域小中一貫校建設工事を6月から施工し、令和3年11月完成を目指して工事を進めている。 *社地域小中一貫校基本・実施設計業務を8月から着手し、今年度は基本設計として施設配置や教室等の配置などの基本設計を構築して、令和6年度開校に向けて準備を進めた。	目標値	なし	H27基準	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
関連事業 ③ 小中学校の施設改修工事 小学校のトイレ洋式化工事 就学援助事業	② GIGAスクール構想に基づきインターネット回線などのICT教育機器の整備を行った。また、学習用タブレットパソコンを児童生徒一人1台整備した。(2, 155台追加整備) ③ 安全・安心な教育環境の整備のため、小中学校の体育館の外壁や、普通教室などにオゾン発生装置を整備した。 ④ 就学援助・就学奨励の補助を実施し、令和2年度入学前準備金を支給した。	実績値	件(小) 件(中)	3(トイレ洋式化) 3(電子黒板)	4(体育館窓等) 2(体育館外壁等)	6(CB床改修等) 3(CB床改修等)	2(エアコン等) 1(エアコン等)	9(タブレットPC) 3(タブレットPC)	—	—	—	—
成果と評価 Check	③ 学校現場の実情把握と調整	取組	継続課題	成果	<ul style="list-style-type: none"> 東条地域小中一貫校整備事業について、義務教育学校の開校時期は、校舎完成前であるが東条東小学校・東条中学校を利用し、建設工事後に移転することとなり、建設工事と共に賃貸条例改正や引越など校舎に向けた諸準備を進めた。社地域小中一貫校基本・実施設計作成業務について、開校準備委員会や教職員プロジェクトチームとともに施設配置、教室等の配置の協議を行い基本設計を構築することができた。 GIGAスクール構想に基づき児童生徒一人1台のタブレットパソコンを整備し、家庭でも学習に使用できるようになつた。 老朽化した学校施設の整備・改修工事(社会学校外郭トイレ改修、社小学校・福田小学校校舎防水改修工事、滝野東小学校普通教室床改修)を実施し、学校環境の改善ができた。 児童生徒の14.0%に就学援助を実施し、就学支援ができた。 令和3年度入学予定の就学援助対象者へ、入学準備金早期支給を行つた。 各学校へ出向き、現場確認を行い、状況把握を行つた。 							
今後の課題 Action	③	取組	課題や改善点	評価	東条地域小中一貫校基本・実施設計作成業務がスケジュールどおり進めることができたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施できなかつた改修工事があるため評価は「B」とする。							

R2 【点検と評価】

基本方針3 基本的方向(3)		子どもの学びや育ちを支える仕組みの確立 子どもの健全な成長を見守り支える体制づくり		年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)		
所管課 目標設定 Plan	学校教育課、こども教育課、青少年センター 成績指標 各校で開催している「情報モラル研修会」に参加した保護者、地域住民の人数	目標値	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)		
		実績値	人	人	814	900	930	930	1000		
各校の「情報モラル研修会」に参加した人数 1000以上・評価「A」、900人以上・評価「B」、800人未満・評価「C」、800人未満・評価「D」											
取組内容		①学校・家庭・地域と社会教育関係機関が一体となつた環境づくり									
①新型コロナウイルス感染拡大防止対策に配慮しながら、可能な限り学校オープンや地域での活動が実施できるように取り組んだ。 ②通学路、地域のより一層の安全確保のため、「通学路安全プログラム」に基づき、関係課で合同点検を行い、危険箇所の対策を検討した。 ③部活動のより専門的な技術指導の充実を図るため、部活動指導員と部活動外部指導者を配置した。 ④インターネット上のルールやマナーの向上を図るため、各小中学校で情報モラル研修会を実施した。											
②子ども子育て家庭を支える仕組みづくり		①関係機関の情報交換を行い、連携を深めることで、事業内容の充実を図った。 ②地域全体として、子どもたちの成長を支える環境をつくるために、ボランティアの育成など地域人材の発掘に努めた。 ③児童虐待等の多様な課題に対応するために、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用し、関係機関と連携した家庭支援を行った。 ④私立認定こども園の施設整備に対し助成を行うことで、教育・保育環境の充実を図った。 ⑤児童館等において、年齢ごとの親子活動を実施したほか、自主サークル等の活動を支援し、保護者の孤立化、子育ての不安感の解消に努めた。 ⑥関係機関との情報提供、情報交換と緊密な連携により、子育て家庭への支援を行った。 ⑦病気や病気の回復期のため、集団での保育等が困難な児童を車用施設で一時的に預かる「病児病後児保育事業」を実施し、保護者の就労と子育ての両立を支援した。 ⑧育児の援助を受けたい人(依頼会員)と行いたい人(協力会員)が会員となり、アドバイザーが育児の相互援助活動を仲介する「ファミリー・サポート・センター事業」を実施した。また、会員のスキルアップのための講習会を開催した。 ⑨全小学校区で「放課後児童健全育成事業」を実施し、共働きなど留守家庭の小学校に就学している児童に対して、放課後等に遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図ることで、保護者の就労と子育ての両立を支援した。 ⑩令和3年度からの東条地域のアフタースクールの運営方法について、東条地域の小学校1～5年生と5歳児の保護者を対象に意向調査を行い、集約して実施することを決定した。									
関連事業		① いきいき学校応援事業 子ども見守り隊 部活動指導員配置・外部指導者派遣事業 通学路安全プログラム ② 認定こども園の整備 地域子ども・子育て支援事業 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー配置事業 教育無償化保育料軽減補助事業									

成果と評価		取組 繼続課題		成果	
Check	(1)	▷部活動指導員・外部指導者の活用		▶中学校3校で部活動指導員を5人、外部指導者を2人配置して部活動の活性化に努めた。	
	(2)	▷幼児教育・小学校教育の円滑な接続 ▷子育て家庭への適切な支援		▶地域子ども・子育て支援拠点などで、子育て家庭の交流と支援を行った。	
	評価	各校の「情報モラル研修会」に参加した人数が133人だったので、評価「〇」とする。			
今後の課題	取組 課題や改善点				
Action	(1)	◊一人1台の学習者用タブレットパソコン整備が完了し家庭での活用を推進する中で、児童生徒が家庭で安全に適切な活用ができるよう、保護者への啓発と研修への参加促進、研修内容の充実を図る必要がある。			
	(2)	◊子育ての孤立化や子育ての不安感、負担感の軽減を図るために場を提供する必要がある。			

R2 【点検と評価】

基本方針3 子どもの学びや育ちを支える仕組みの確立		年度評価		2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
基基本的方針(4) 家庭の教育力の向上		年	度	B	B	B	B	D
所管課 目標設定 Plan	青少年センター、学校教育課、生涯学習課、発達サポートセンター 成果指標 保護者等を対象とした各種講座の回数	H27基準値	目標値 実績値	2016(H28) 回	2017(H29) 回	2018(H30) 回	2019(R1) 回	2020(R2) 回
講座回数45回以上：評価「A」、講座回数30回以上：評価「B」、講座回数25回以上：評価「C」、講座回数25回未満：評価「D」								
取組内容	<p>①親の学びの機会の提供、関係機関の連携による地域が家庭を見守る体制づくり</p> <p>1 インクルーシブ教育の啓発を進めるために、保護者、一般市民向けの研修会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。</p> <p>2 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、保護者の悩みを受け止めのために、学校教育課、青少年センターが積極的に関わら相談に応じた。</p> <p>3 いじめ等の問題で悩む保護者等を支援するために、学校教育課、青少年センターが積極的に関わら相談に応じた。</p> <p>4 *青少年健全育成に資するため、「地域子どもも教室」、「新成人の集い」を実施するとともに、市子ども会育成連絡協議会と連携し、地域の大人が青少年を見守り育む体制を継続した。なお、「あつたか伝の助かるた大会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。</p> <p>*子どもたちが多様な体験ができる機会を提供するための「小学生チャレンジスクール」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じて実施した。</p> <p>*郷土の自然の良さを再認識する機会として「市ノーベル大賞」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。</p> <p>*地域の大人が連携・協働して子どもたちを育てるという意識の向上を図るために、市連合PTAと連携し研修会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。</p>							
Do	<p>不登校対策委員会 スクールソーシャルワーカー配置事業 ひょうご放課後プラン(地域子ども教室)事業 成人式事業 青少年育成団体活動支援事業(市子ども会育成連絡協議会 ボーイスカウト兵庫連盟(加東第5団))</p> <p>関連事業 ① 市子ども会育成連絡協議会事業：書初め大会、夏休み体験教室(折り紙)、サッカーフィールド大会、オセロ大会を開催 小学生チャレンジスクール事業 親子での活動や親学習の機会の充実</p>							

成果と評価		取組	
Check		継続課題	成果
<p>△保護者・一般市民やアンケート・介助員対象の研修会の充実</p> <p>(1)</p>	<p>「地域子ども教室」、「新成人の集い」を通じて、子どもたちが、友人や家族、地域の人たちとともに、本市で生まれ育つ喜びを感じ、郷土愛を深め、地域の歴史や伝統を次世代へとつなぐことの大切さを学ぶことができた。特に「地域子ども教室」においては、地域の大人や仲間と一緒に活動することで、人間関係や上下関係、規律、道徳心を理解し、仲間づくり等の術を学ぶことができた。</p> <p>「小学生チヤレンジスクール」では、開催時期や手法を工夫し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じ、様々な体験活動や学習活動を実施し、自らの知識や技術の向上につなげることができた。</p> <p>※9事業24教室開催 内容：キャンプ等の野外活動、ニュースポーツ等のスポーツ体験活動、プログラミング等の体験活動、茶道や生花等の伝統文化活動など</p> <p>「市ノーベル大賞」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点及び児童の夏休み期間の変更の理由から中止した。</p> <p>「市子ども会育成連絡協議会主催の各大会では、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じて実施し、地域の大人と子どもとの交流はもとより、家庭内の交流を充実させることができた。</p>	<p>▶保護者に加えて、スクールアシスタントや介助員等特別支援教育に関する職員対象の研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。</p>	
<p>△加東市連合PTAと協調した事業の実施と親学習・家庭教育の充実に向けた研修会多かったことから評価を「D」とする。</p>	<p>▶新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限・制約がある中で、十分な対策を取るとともに、各種団体と連携強化し実施したが、中止した講座等</p>		
<p>評価</p> <p>(1)</p>	<p>課題や改善点</p>	<p>△実施する研修会へ保護者及び一般市民の参加を増やすための取組が必要である。</p> <p>△東条地域を皮切りに新たに体制を整備する「地域学校協働本部」の円滑な運営に向け、「地域学校協働活動推進員」の委嘱、活動内容の精選、学校運営協議会との連携・協調等、調整する必要がある。</p> <p>△地域や保護者がより一層子供を育む環境を整えるため、「地域子ども教室」の指導員及び学生ボランティアを対象に、子どもたちとの関わり方を深めるための取組が必要である。また、他部署連携による子ども見守りも検討する必要がある。</p> <p>△公共施設適正配置計画並びに小中一貫校開設を注視しながら、新たな「地域子ども教室」のあり方を実行委員会で深く検討する必要がある。</p> <p>△引き続き加東市連合PTAと連携して、親学習・家庭教育が充実するよう、計画的に、かつニーズに応じた研修を実施する必要がある。</p>	
<p>今後の課題</p> <p>Action</p>	<p>取組</p>		

R2 【点検と評価】

目標設定 Plan	所管課 生涯学習課	年度評価 2016(H28) A 2017(H29) A 2018(H30) A 2019(R1) A 2020(R2) B	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成	
			生涯学習講座等の実施内容と参加者数の増減(市主催事業通年分)	目標値 実績値
			※市子ども会育成連絡協議会、ボイスカウト兵庫連盟(加東第5団) ※令和2年度登録サークル数 (滝野公民館22、社公民館25、東条公民館14、さんあいセンター40、明治館8、コミュニティセンター東条会館10の計119団/体)	— 4
成果指標の目標値は設定せず、実績値を比較・分析して評価する。				
①各年代に応じた学習、施策の取組 *市民の学習機会の拡大のため、「成人学習講座(文学、インドヨガ、料理)」や「文化財講座」を継続して実施した。また、「高齢者大学」は、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から中止した。 *青少年の心と体の健全な発展を促し、自主性、社会性や正義感・倫理観を持つ豊かな人間性を育成するため、青少年健全育成事業を実施した。				
②社会教育関係団体の支援 市連合婦人会、市連合PTAの団体活動がより活発化するよう、自主性を重んじながら、各団体の設立趣旨も確認しつつ社会教育活動を支援した。市連合婦人会については、新型コロナウィルス感染拡大防止対策を講じた手法での活動となるように助言・支援した。市連合PTAについては、一堂に会する活動は行わず、各家庭への情報提供や各学校への消毒液配布などの活動を行った。				
③芸術・文化活動の振興 *本市の文化振興を図るため、「公募美術展」「加東市收藏品展」、加東文化振興財団及び新しい風かどりによる各種文化芸能事業等を実施した。 *文化祭は、令和元年度と同様、秋のフェスティバルと同日・同会場で実施する予定であったが、秋のフェスティバルが中止となつたこと及び新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から中止した。 *市民がレベルの高い演奏に触れる機会を提供するため、東条文化会館で開催を予定していた第31回日本木管シンクール(フルート部門)については、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から中止した。 *文化芸術の振興を目的として、文化芸術部門で優秀な成績を収められた方に「文化芸術賞賜金」を贈った。また、市の文化芸術部門の発展に貢献された方や優秀な成績を収めた方に「文化賞」を贈呈した。				
④芸術・文化団体の支援 *市文化連盟、市美術協会、各公民館やコミュニティセンターを使用される文化団体を支援することで、本市の文化芸術の向上が図れた。 *各公民館ごとに趣向を凝らした活動券表の場を提供する予定であったが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から各館の公民館まつりは中止した。 *市文化連盟は、「こども絵画展」を通じて、子どもたちに郷土への関心を深め、芸術文化に接する機会を設けることで、地域の文化の発展に貢献した。なお、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から「文化連盟祭」は中止した。 *市美術協会は、「美術協会展」や研修会の開催のほか、本市主催の「公募美術展」を支援し、本市と連携して地域の文化芸術振興に貢献した。				

Do

関連事業	① 高齢者大学 成人学習講座 各公民館定期登録団体 ② 市連合婦人会・市連合PTAへの支援 ③ サークル活動支援 公募美術展事業 文化祭事業 ギャラリー活用事業 加東文化振興財団文化事業(委託) 新しい風かとう文化事業(委託) ④ 芸術・文化団体の育成 活動支援(市文化連盟、市美術協会)		
	成果と評価	取組 繼続課題 成果	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から様々な事業を中止し、多くのサークルが活動を自粛するなか、消毒や換気のための対策を施し、可能な範囲で各世代向けの講座を開設し、学習機会を提供することができます。 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した新たな講座の在り方として、動画配信による成人学習講座の開催などの取組を進め、コロナ禍であっても、より多くの市民が学習に参加できる機会を提供した。
	Check	① ▷人を引き付ける魅力ある新たな成人向け講座の開設 ② ▷自分のためなく、人のため、地域のためといった行動がとれる団体の育成 ③ ▷多数の参加者・観覧者を集める工夫 ④ ▷自分たちの団体、活動だという意識を強く持つて活動ができる後継者の育成	市連合婦人会、市連合PTAの団体は、自らの団体の役割を十分に認識し、子育て、人権、環境問題などに係る様々な分野に参画され、各々の役割を果たすことができた。特に子育てで構成されている「子育て応援ネット推進連絡会」においては、中心的な役割を担っている。
	Chec	① ▷文化祭を中止し、各公民館及びコミュニティセンターの使用についても定員の減少や消毒、チェックリストの提出等を求めて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じることで、リスクを低減しつつ少しでも展示・イベントができるよう調整した。	市文化連盟は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から公民館などの活動場所や発表の機会が制限される中、文化芸術分野において、自己の研鑽や生きがいづくり、コミュニティの増進等を目的とするサークル活動を支援し、ソーシャルディスタンスの確保などの対策を講じ、市内の文化活動の受け皿としての役割を果たすことができた。
評価			新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限・制約がある中で、講座や展示など十分な対策を取るとともに、各種団体と連携強化し実施したが、中止した事業や縮小した事業が多く、参加者数が伸び悩んだことから評価を「B」とする。
今後の課題			取組 課題や改善点 ① ◇成人向け講座が有志による自主的なサークル活動へと移行できるよう支援しつつ、新たに有志が集えるよう魅力ある成人向け講座を開設する必要がある。講座で学んだことを地域や社会に還元できるような手立てが必要である。 ② ◇新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から活動を自粛したサークルのうち、復帰が難しくそのまま活動を停止するケースが発生していることから、活動再開に向けての支援が必要である。 ③ ◇社会教育団体の存続・活性化が難しい状況において、自分のためではなく、人のため、地域のためといつた行動がどれる団体の育成が、社会教育上大切であることを認識し、粘り強く、継続して支援する必要がある。そのためには、各団体のリーダーを見出し、つながりを深めて後方支援を行う必要がある。 ④ ◇引き続き、各種団体に対し「自立」という意識をもつて、活動していただけよう指導するとともに、後継者の育成に努める必要がある。
Action			

R2 【点検と評価】

基本方針4 基本的方向(2) Plan	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成 文化財保護の推進と活用	年度評価 2016(H28) A 2017(H29) A 2018(H30) A 2019(R1) B 2020(R2) B
所管課 目標設定 Plan	生涯学習課 成果指標 資料の公開・活用の回数	H27基準値 目標値 実績値
		— 回
		— 回
		— 回
成績評価	成績指標の目標値は設定せず、実績値を比較・分析して評価する。	
取組内容 Do	①文化財の保護・活用 *市内に所在する指定文化財を保存し、後世に継承していくため、防火設備管理事業、無形民俗文化財の後継者育成事業、文化財保護活動として見学会や出前講座とともに、その意識を高める広報・啓発活動を展開した。後継者育成事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から規模を縮小して行った。 *周知の埋蔵文化財包蔵地の保護のため、開発事業に伴う試掘・立会調査、開発照会事務を実施した。	
関連事業	① 文化財保護対策事業 埋蔵文化財調査事業 歴史民俗資料館管理運営事業 三草藩武家屋敷管理運営事業	
成績と評価	取組 繼続課題 成績	
Check	①	►40年振りとなる資料館展示品のリニューアルや終戦時期に合わせた戦争遺産展の開催により、本市の文化財の魅力を発信できた。 ►埋蔵文化財の出土遺物や民俗資料館、郷土資料の利活用、展示、保管 ►施設の維持管理
評価	評価	►埋蔵文化財の出土遺物や民俗資料館、郷土資料の利活用、展示、保管 ►施設の維持管理 ►新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から使用を制限したこともあり、加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷旧尾崎家の入館者数が大きく減少したが、資料館展示品のリニューアルや戦争遺産展の開催で本市の文化財を広く周知したため、評価を「B」とする。
今後の課題	取組 課題や改善点	
Action	①	◇文化財の適正な長期保護の観点から、恒久的な管理施設を完備し、かつ展示スペースの確保について検討する必要がある。(令和3年度から埋蔵文化財事務所が地域交流センター(旧:滝野文化会館)に移設することから、1階ロビー一部分の活用について検討する必要がある。) また、保存環境に左右される文書・絵画の保存施設についても検討する必要がある。 ◇引き続き、文化財の保護及び普及・啓発を図り、本市の貴重な文化財を活用した展示会を開催し、積極的に市内外へ情報発信する必要がある。 ◇加古川流域滝野歴史民俗資料館・三草藩武家屋敷旧尾崎家とも入館者数を増やすための活用・運営方法について検討する必要がある。

R2 【点検と評価】

基本方針4 基本的方向(3)		生涯学習による、どれもが生きがいをもてる社会の形成 生涯スポーツの普及と振興		年度評価 2016(H28) B 2017(H29) B 2018(H30) B 2019(R1) A 2020(R2) C				
所管課 目標設定 Plan	生涯学習課 成果指標 気軽に参加できる生涯スポーツ大会数	目標値 実績値	単位 回	H27基準値 — 9	2016(H28) 2017(H29) — 9	2018(H30) — 9	2019(R1) — 8	2020(R2) — 9
成果指標の目標値は設定せず、実績値を比較・分析して評価する。								
①生涯スポーツの振興とコミュニティづくりの支援								
1 市民の健康保持・増進、地域コミュニティの育成につなげるため、生涯スポーツ事業を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。 2 「地区親善ソフトボール大会」、「地区親善ハーボール大会」、「ゲートボール大会」、「ペタング大会」、「グラウンドゴルフ大会」、「卓球大会」、「パークゴルフ大会」、「ふるさとハイキング」								
②スポーツ団体の支援								
*市民の健康増進はもとより、本市のスポーツの振興や市民のスポーツニーズの受け皿となるよう、自主的なスポーツサークル活動を支援した。 1 *市民のスポーツ活動活性化のため市体育協会加盟団体に、体育施設の予約などの優遇措置を講じ、活動を支援した。 2 *令和2年度：市体育協会加盟団体158団体、加東市スポーツ少年団8種目21団体、その他市内のスポーツサークルは69団体。 (市体育協会加盟団体と一部に重複あり。)								
*市民のスポーツ活動を推進するため、振興体系の中核を担っている市体育協会の活動を支援した。 1 *市民のスポーツ活動活性化のため市体育協会加盟団体18協会のうち、各協会に入会しているスポーツ団体に対し助成等の支援を行つた。 2 *栄誉と誇りを市民共々が共有できるように、スポーツ団体及び市民アスリートに対し、活躍や成績に応じて、「スポーツ賞賜金」を贈るとともに、「スポーツ賞」を贈呈した。								
関連事業		Do ① ふれあい球技大会(地区親善ソフトボール大会 地区親善ハーボール大会 ゲートボール大会 ペタング大会 グラウンドゴルフ大会、卓球大会 ② パークゴルフ大会) 加東伝の助マラソン大会 ふるさとハイキング ③ 体育協会補助金 スポーツ賞制度 代表選手賞賜金制度 体育施設維持管理事業						

成果と評価	取組	継続課題		成果					
		①	②						
Check	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 各事業の内容、会場等を精査、人員確保と安全対策 ▷ 多種のスポーツに参加できる体制が整っていることの市民への周知 ▷ 年間使用計画と施設利用の調整 ▷ 施設利用者の混乱を避けるため、市体育協会をはじめ、各種団体等に周知 	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 活躍するスポーツ団体及び市民アスリートへの抜けのない周知 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 例年であれば、市体育協会(各種目協会含む)、市スポーツ推進員等の協力を得て、市民自らの手による市民のための大会を開催していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各種事業を中止した。 ▶ 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら「加東伝の助マラソン大会」の開催を模索したが、完全に大会を開催することができないと判断し、開催を中止した。 					
	(2)			<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各スポーツ団体への支援として、施設利用の減免支援及び活動補助並びに活躍するスポーツ団体及び市民アスリートに対し、賞賜金及び表彰を贈呈し、功績を称えることができた。 					
今後の課題	評価	<p>各種団体において、各種事業の開催について模索したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から各種大会の開催を中止したため評価を「C」とする。</p>							
	Action	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>取組</th> <th>課題や改善点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 公共施設適正配置計画に基づき、廃止となる施設について、定期利用団体との調整を密に行い、年間使用計画に支障が生じないよう調整を図る必要がある。また、施設利用者の混亂を避けるため、市体育協会をはじめ各種団体に周知する必要がある。 ◇ 市民が気軽に生涯スポーツに取り組めるよう、様々なリスクに対する回避策を定めるとともに、スポーツ団体・指導者の育成に努める必要がある。 </td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 今後においても、引き続きスポーツ団体へ支援する必要がある。 ◇ 活躍するスポーツ団体及び市民アスリートへ抜かなく表彰制度を周知するために市広報紙及びHPに掲載するとともに、各種団体を通じた推薦方式を充実させる必要がある。 </td> </tr> </tbody> </table>	取組	課題や改善点	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 公共施設適正配置計画に基づき、廃止となる施設について、定期利用団体との調整を密に行い、年間使用計画に支障が生じないよう調整を図る必要がある。また、施設利用者の混亂を避けるため、市体育協会をはじめ各種団体に周知する必要がある。 ◇ 市民が気軽に生涯スポーツに取り組めるよう、様々なリスクに対する回避策を定めるとともに、スポーツ団体・指導者の育成に努める必要がある。 	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 今後においても、引き続きスポーツ団体へ支援する必要がある。 ◇ 活躍するスポーツ団体及び市民アスリートへ抜かなく表彰制度を周知するために市広報紙及びHPに掲載するとともに、各種団体を通じた推薦方式を充実させる必要がある。 	
取組	課題や改善点								
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 公共施設適正配置計画に基づき、廃止となる施設について、定期利用団体との調整を密に行い、年間使用計画に支障が生じないよう調整を図る必要がある。また、施設利用者の混亂を避けるため、市体育協会をはじめ各種団体に周知する必要がある。 ◇ 市民が気軽に生涯スポーツに取り組めるよう、様々なリスクに対する回避策を定めるとともに、スポーツ団体・指導者の育成に努める必要がある。 								
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 今後においても、引き続きスポーツ団体へ支援する必要がある。 ◇ 活躍するスポーツ団体及び市民アスリートへ抜かなく表彰制度を周知するために市広報紙及びHPに掲載するとともに、各種団体を通じた推薦方式を充実させる必要がある。 								

R2 【点検と評価】

基本方針4	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)		
基本的方針(4)	社会教育・体育関係施設の管理・運営		A	A	A	B	A		
所管課 目標設定 Plan	生涯学習課 成果指標 安全で快適な施設の管理事業を行った件数	年	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)		
		目標値	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
		実績値	件	設定なし	—	—	—	—	—
					5	10	11	11	9
取組内容	①社会教育・体育関係施設の管理・運営	市民に喜ばれる施設として、また気軽に活用していただける施設を目指し、3公民館、2コミュニティ施設、3文化会館、6体育会館、9グラウンド、滝野複合施設、明治館、加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷日尾歴家の適切な運用と効果的な維持管理に努めた。							
Do	公共施設適正配置計画に基づき、各施設について計画的に適切な維持管理・運営に努めた。 市指定避難所となる(体育館等)については、空調設備整備工事を実施し、熱中症対策を図るとともに、新型コロナウイルス感染防止対策のために、換気機能を有した機種を選定した。また、新型コロナウイルス感染防止対策として、夜間の貸館時ににおける換気対応として網戸の設置工事を行った。 令和2年度の主な事業等 社第一体育館・社武道館・滝野総合公園体育館「スカイピア」、滝野体育センター大型空調設備整備工事(実施設計業務等含む) 社第三グラウンド駐車場講装工事 社第二グラウンド整地工事 東条グラウンド土地区界確認書作成業務(借地解消については継続中) やしづ国際学習塾空調設備更新工事実施設計(工事は令和3年度実施) 地域交流センター(旧・滝野文化会館)案内標識取替工事等	① 3公民館 2コミュニティ施設、3文化会館 6体育会館 9グラウンド 滝野複合施設 明治館 加古川流域滝野歴史民俗資料館							
関連事業	① 3公民館 2コミュニティ施設、3文化会館 6体育会館 9グラウンド 滝野複合施設 明治館 加古川流域滝野歴史民俗資料館	取組	継続課題	成果					
成果と評価	① 各施設における快適な使用環境の提供	Check		■市指定避難所となる体育館等については、空調設備整備工事を実施することで、熱中症対策及び災害等における避難者の体調維持及び身体的負担の軽減を図る環境が整った。 ■新型コロナウイルス感染防止対策として、感染状況に応じて施設の開閉や使用制限を行うとともに、施設の消毒を徹底し、施設使用者が安全安心に使用できるよう維持管理を行った。 ■引き続き存続する施設については、概ね適切な維持管理を行った。					
評価	各施設において、必要な設備を順次整備し、利用者の安全安心を確保することができたことから評価を「A」とする。	取組	課題や改善点						
今後の課題		Action	① ◇引き続き、施設の適正な維持管理に努め、施設運営における利用者の安全安心を確保するため、長寿命化調査を実施した上で、個別計画(修繕計画)を策定し、計画に沿った形で修繕工事を実施する必要がある。						

R2 【点検と評価】

基本方針4 基本的方向(5) Plan	生涯学習による、たどれもが生きがいをもてる社会の形成 市立図書館の充実	所管課 目標設定 Plan	中央図書館 成績指標 図書館利用の市民登録率	年 度 評 価 2016(H28) B 2017(H29) B 2018(H30) B 2019(R1) B 2020(R2) B
取組内容	市民登録率目標値以上：評価「A」、順調に登録率上昇：評価「B」、登録率低下：評価「C」、登録率低迷：評価「D」 新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、4月から5月の間は館内立入禁止の利用制限を実施、各館の玄関付近に仮カウンターを設け、予約資料の貸出を行った。	①資料提供・情報提供の充実 ②魅力ある蔵書の整備・充実 ③図書館利用の推進	1 利用の促進を図るため、広報かとう及びインターネット、ケーブルテレビ、図書館だより(偶数月発行)により情報提供を行った。 2 図書館システムを利用し、図書や雑誌などの貸出を行うとともに、利用者の利便性を高めたため、ウェブ予約やMY本棚機能によるサービス充実に努めた。特に利用制限中はウェブ予約件数や貸出冊数、貸出期間を増やした。 3 児童生徒が本に触れる機会を増やすため、学校との連携を図り、学校の要望を取り入れた団体貸出(おとどけ図書館)を実施した。 ④魅力ある蔵書の整備・充実 1 図書館資料収集基準及び廃棄基準に基づき、市民(利用者)の要望に応えるため、蔵書の整備・充実に努めた。 2 利用者からの要望に応えるため予約資料の購入や郷土資料を収集した。 3 雑誌コーナーの充実を図るため、雑誌スポーツセンター制度の導入により、雑誌のタイトル数を増やした。 4 多様な図書に触れてもらうため、特設展示コーナーを設置し、普段手に取りにくい図書も案内した。利用制限中は、屋外や玄関付近で利用者自身に図書を選んでもらえるように工夫した。 ⑤児童生徒が本に触れる機会を増やすため、おとどけ図書館を学校のスケジュールに合わせて実施した。また、おでかけ図書館を実施し、児童が本や図書館に親しみきっかけづくりを行った。 ⑥児童が絵本などを触れる機会を増やすため、おはなし会を3館で実施するとともに人権協働課と連携し「人権絵本の読み聞かせ」を館外でも行った。 ⑦児童の絵づくりには絵本が重要であることを伝えるため、健康課と連携し、4か月児健診の親子に「はじめてでいう絵本」を実施した。 ⑧施設を有効利用するため、図書館の会議室を、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、座席数を減らして学習室として活用した。 ⑨利用者の利便性を高めるため、図書館相互利用推進事業(加西市・西脇市・多可町の返却本の預かりサービス、リクエスト本の相互貸借)を実施した。	①図書館システムの維持管理 団体貸出 ②図書等の資料購入 雑誌スポーツセンター制度 ③おとどけ図書館 おでかけ図書館 おはなし会 はじめであう絵本 読書活動推進事業 特設展示コーナー
関連事業	Do			

成果と評価	取組	継続課題	成果
Check	(1) ▷資料提供・情報提供の充実、市民への情報提供方法		▶図書館により、広報かとう、インターネット、ケーブルテレビ等により情報提供した。
	(2) ▷特別展示等の開催、雑誌スポンサー制度の充実		▶毎月、各館で話題性や季節の行事などで、テーマを決めて展示を行うことにより、蔵書の活用を図った。 ▶雑誌スポンサー5者で8冊
	(3) ▷おとどけ図書館の選書、おでかけ図書館の対象学年拡大、おはなし会の他部署連携、読書活動推進事業の拡充		▶学校と協力する「おでかけ図書館」は、市内2校で実施した。図書館の役割について説明を行うとともに、施設の見学や「としょかんカード」により本を借りる体験を提供了。また、児童自身の図書館カードを登録することにより、図書館利用意欲を高めることができた。 ▶市内外の図書館相互利用により、図書館の利用促進を行った。 ▶各館で新型コロナウィルス感染拡大防止対策を実施し、利用者に安心安全の読書環境を提供了。 ▶マイナンバーカードを図書館カードとして利用できるようにし、利用者の利便性を高めた。
評価	3／31現在の登録者数、市内22,407人 全体35,549人 市民登録率63.0% のため、評価は「B」。		
今後の課題	取組	課題や改善点	
Action	(1)	◇図書館の利用について、市民に情報提供を行っていく。	
	(2)	<雑誌スポンサーを増やすために効果的なPRを行う。	
	(3)	◊リクエスト等市民が希望する本について、購入又は他館との相互貸借により貸出を行う。 ◊学校や他部署と連携を図り、子どもに読書の輪を広げ、市民の自己学習を支援する活動を展開していく。 ◊読書活動推進事業においては、新型コロナウィルス感染拡大防止対策をとりながら、市民が参加したいと思う催しを行う。	

評価委員所見

評価委員

所 見(特にコメントすべきことがあれば)	
こども園・学校教育	<p>小中一貫教育の実質的スタートを迎えた今、「点検と評価」において、PDCA具現化の促進が強く意識されている証を、ハッキリと認めることができる。</p> <p>これらの事実は、今後の新しい取り組みの確かな進展を示唆していると思われ、今後において大きな期待を抱かせてくれる。</p>
社会教育	<p>本市では「地域学校協働本部」を構想して、社会教育の展開においては、学校と地域による連携・協働活動を拠り所にした多くのプログラムが用意されている。これらの備えは、個人の自由意思に委ねられている社会教育の更なる充実を図る突破口になるのではと期待される展開の1つである。将来的な成果が楽しみである。</p> <p>しかし、個々の学習者の期待に応じるには、本市のみならず、一般的に「経営の立場」と「実戦の立場」からの両マネジメント間における相互作用の強化が不可欠とされている。したがって、今後も引き続いて、市民の要請に応じるための、「経営」と「実戦」の相互作用のさらなる強化を図って欲しいし、また今の状況はそれを可能にできると思われる。</p>
教育行政	<p>「第2期加東市教育振興基本計画」が5年間にわたって展開された今、トップ・マネジメントとミドル・マネジメントがうまく協働していることを確認できた。その証の一端は、「点検と評価」に記された今後の課題一覧に見ることができる。</p> <p>これらは、経営の立場によるPDCA実施に対する意識とその具現化の推進を図る素地ができたことを示唆しているように思われる。これらの成果は、今後の適切な「選択と集中」に備える“構え”的素地ができたことを示唆するものに他ならず、期待は大きい。</p> <p>しかし、これらの“構え”的構築を各種環境の変化に対応できる確かなものにするためには、経営的なトップ及びミドル・マネジメントと実践におけるロア・マネジメントの三者間の綿密な相互作用、すなわち、経営の意図に応じた実践、実践からの要望を取り込んだ経営が、重要であると思われる。その理由は、学習者が常に望んでいる学習場面を設定する場合にも、“構え”的構築と同様に、三者間の綿密な相互作用が不可欠となるからである。</p> <p>したがって、上記の三者間の綿密な相互作用の重要性に対する意識の強化とその実施の推進が望ましいように思われる。</p>

総 評
<p>上記の三者間の綿密な相互作用の推進こそが、必要に応じた適切な「選択と集中」や学習者が望んでいる学習場面の設定を可能にする。</p> <p>したがって、三者の各ステージにおいて、三者による綿密な相互作用の重要性を常に確認し続けることが肝要であると思われる。成果が待ち遠しい。</p>

評価委員所見

評価委員

所 見(特にコメントすべきことがあれば)	
「こども園・学校教育	<p>基礎基本を重視しながら、新しい教育課題（ICT機器効果的活用等）にも積極的に取り組んでいる。また、「ふるさと学習（かとう学）」の副読本も完成し地域に根差す教育の取組も始まった。</p> <p>小中一貫校も令和3年4月開校する。一貫校のよさを他の学校・園等へ波及するような先導的取組が望まれる。</p>
社会教育	<p>施設の適正配置等課題がある中、創意工夫した運営や事業が展開されている。今後、社会教育委員会をはじめ、各種委員会等の意見を尊重し、「学習成果の社会還元：知らせる・発表する・教える・役立つ」を活かし、より一層の「生涯学習ボランティアの育成と活用」や「自治能力を備えた市民の育成」が望まれる。そのためには、住民自治や受益者負担をもっと導入してもよいのではと思う。</p>
教育行政	<p>条件整備については、計画的に進められ充実してきている。小中一貫校の着実な推進は、条件整備の効率化に寄与すると共に、たくましい「加東っ子」の育成につながり、特色あるまちづくりにも大きく貢献することは確かである。</p>
総 評	
<p>事業効果を上げている割に市民に十分伝わっていない。教育委員会全体（特に学校・社会教育現場）として、さらなるマスコミ等への情報提供と市民への発信が望まれる。それが、市民の生涯学習についての意識向上に大きく寄与する。防災無線やCATVの効果的な活用。</p> <p>事業量が年々増加してきていることを考え、厳しく事業を見直し、スクラップ＆ビルトを一層進めてもらいたい（特に社会教育分野：団体の自立、学習課題の選別。必要課題のみに税金を！）。</p>	